

副詞 *inversement* の機能について

新田直穂彦

(東北大学大学院修了)

副詞 *inversement* の用法を位置逆転, 意味逆転という2つに分けて, 各用法の機能について考察し, 日本語の副詞「逆に」との違いを明らかにすることを目的とする. 芦野(2005)に則り, *inversement* の左側の命題を P , 右側の命題を Q , P の参加項を a, b , 参加項の関係を r とすると, 位置逆転の機能は P の r を保ちつつ P の a, b を入れ替えた Q を導くことだと言える. P, Q の a, b, r はそれぞれ意味的に等価であればよい. また, a, b の間で利益のやりとりがあれば, r が等価でなくても *inversement* は使用できる. 意味逆転の機能は, P のレーマと反対の意味を持つレーマを含む Q を導くことである. Q のレーマが P のそれと正反対である必要はなく, *inversement* は比較的自由に使用できる. しかし, Q が P から予想されるのとは反対の事態である場合は使用できない.

日本語では「逆に」が *inversement* に対応するが, 両者には機能に明確な違いがある. *inversement* と異なり「逆に」は, 単独で方向や順序などが反対であることを表し, 予想と反対の事態を示す Q を導くことができる. また, P と正反対の関係にある Q を要求するため, P の r を保ったまま a, b を入れ替えると不自然になり, 利益のやりとりがあるような相互関係とも相性が悪い.